

## 会 議 議 事 録

会 議 名	平成27年度 第1回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	平成27年7月1日（水） 18時～20時	
会 場	専門学校 東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員	7人 (参加者) 浅古純一・及川順一朗・田中洋子・齋藤昭男 沼田 勇・大石安孝・佐々木洋文
	事務局	3人 佐藤康夫・山口泰之・戸辺武
会 議 録	<p>1. 校長挨拶 佐藤校長より、本学校関係者評価委員会開催に向けての挨拶が話された。</p> <p>2. 委員の紹介、委員会成立の確認 委員の紹介および会則第5条の2に基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため成立していることを確認した。</p> <p>3. 本日の議長について 出席者全員出席により、会議が成立する事が事務局より報告され、議長に委員長の浅古氏、書記に及川氏が選任された。</p> <p>4. 議事</p> <p>○第1号議案 ・前回議事録確認 【資料A】 事務局山口副校長より、資料A(平成26年度第2回学校関係者評価委員会会議議事録)に沿って前回議事録についての概要説明及び確認が行われた。</p> <p>○第2号議案 【資料C】 ・平成26年度自己点検評価について [資料C] 平成26年度自己点検評価概要を事務局(山口副校長)が「平成26年度自己点検評価結果」を元に概要の説明・確認がなされた。</p> <p>○第3号議案 ・平成26年度実績(就職、資格)および平成27年度入学者報告 平成26年度実績(教員研修・就職・資格)及び平成27年度の入学者に関して事務局(山口副校長)より以下の説明がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年度の教員研修について</li> <li>・H26年度就職結果(内定率・内定業種)について</li> <li>・H26年度の整備士資格取得結果について</li> <li>・H27年度の入学者数について</li> </ul>	

○第4号議案

・平成27年度事業計画報告

平成27年度の事業計画の概要について、事務局（佐藤校長）より説明がなされた。

- ・教育成果（就職、資格合格）に向けた運営組織体制の確立
  - ・ブランディングの推進と幹部の意識改革、教職員の啓蒙
  - ・グループ教職員のあるべき姿の見える化とスキルアップ
  - ・EMの推進における科長の位置付けの明確化と体制づくり
- ・教育成果（就職、資格合格）に向けた教務体制の確立
  - ・就職率だけではなく、質を決める目標企業の明確化と指導
  - ・入学学生の目標に対する的確な評価の実施
  - ・進級、卒業に関わる的確な評価の実施
  - ・目標とすべき教育と教務体制の整合について改善を進める
  - ・ルーティーンワークの意識改善
  - ・募集目標達成への全員参加
  - ・個々の教職員のスキル向上  
企業様の研修等によって教員の専門性を向上させる  
就職指導  
履修指導・生活指導

・東京工科グループのH27年度事業目標（3校共通）

- ・就職率（2級：8月末80%、年度末100%、1級：8月末100%、年度末100%）
- ・資格 JAMCA 主催整備士登録試験模試については全国平均以上を目指す  
国家整備士資格 2級：100%、国家整備士資格 1級：90%
- ・在籍率95%
- ・進級率、卒業率：95%
- ・AG評価：B以上
- ・学生アンケート：2期末、4期末ともに80%

平成26年度 学校関係者評価委員からの課題についての取組について、事務局（山口副校長）より説明がなされた。

1. 実習スキル向上：まずは安全・基礎作業をしっかり充足させてから実施していく予定。
2. 安全・基礎作業について：10項目を決めて実施、実習中（実習服の着方など）の指導をしていく。
3. 学生の意欲を盛り上げるイベント：学園祭でのタイヤローテーションが好評だったので今年も予定している。
4. 国家試験の合格目標：昨年度は2級についてかなり厳しい結果となった。重点指導

学生を抽出して、指導を実施。次回の会で進捗報告をする。

5. 教員 FD について：日産リーフを購入し、新技術の取得。新人教員の教員研修を実施予定。
6. 卒業生動向調査：学園としてグーグルアップスを導入。全学生にメールアドレスを付与した。本システムは卒業後も使用できるため、種々の情報交換に使用する予定。
7. 地域貢献：昨年同様、文園児童館イベント、9月のお祭りに参加予定。

齋藤：26年度実績について、自動車整備業界以外への就職が多いが、自動車整備士不足がある現状の中で、就職進路指導について教えていただきたい。できれば整備士業界へ向けた指導をしていただけるとありがたい。

佐藤：1級について、一部が開発、アジャスターに就職。特徴ある学科があるので、エンジンメンテナンス科など、求人との需給バランスが取れていないのは承知している。母数が足りていないので募集にも力を入れる。決して整備業界へむいていないというわけではないのでご理解をいただきたい。

佐々木：中野区の人口状態は日本の人口状態とは違い、18歳人口が多い。地方から出てくる人も多い。地方へのアピールが必要で、どれくらいそれができているかで大分変わってくると思う。

佐々木：地域との関わりのことを活かしていくことが必要。中野区に3大学がきたので約1万人若者が増えている。学校間の横の繋がりで何かをやる必要があるのではないかと。当校だけのPRではなくて、学生達にとって住みやすい街であることを全国にアピールするのが良いのではないかと。学校間での組織作りをして実施していくのが良いのではないかと。学校評価について、相対評価を知る必要があるのではないかと。他校の規模等を評価委員が知る必要があり、他校を知ることでさらに良く見えるのではないかと。

企業との連携、学生が実際に職場を体験する必要もあるのではないかと。また、整備業界へのアルバイトの斡旋していくことも必要ではないかと。

佐藤：中野区杉並区専門学校協会があるが、情報交換等が主な活動になっている。是非今後活動等について提案をしていきたい。コンソーシアム Tokyo という団体では、毎年7月に池袋サンシャインでイベントを実施して若者にアピールしている。卒業生のアンケートも秋に実施する予定。

佐々木：方向性としては若者が「楽しい」と思えるような、‘お祭り’をやったらどうかということ。なければ作り出さなければいけないのではないかと。

佐藤：相対評価については、第三者評価の準備を JAMCA を中心に進めている。

佐々木：学校がどこに向かっているのか、経営が成り立っているのかなどを知る必要があるのではないか。比較資料を配布していただきたい。また MB コースはなぜ中野校ではなく世田谷校だったのか。

佐藤：公表している資料等をお配りすることは可能。

MB コースはなぜ中野校ではないのかについて、中野か世田谷かでは246沿いの世田谷区の地域性によって決定した。アルバイトの案内については企業さんからたくさん来るようになっている。

佐々木：国家試験結果の原因と対策は

山口：学生のレベルにあった指導が必要。重点指導学生を抽出（約1～2割）して、補習等で実施している。

今回の国家試験の結果は、一番低い学生群より少し上の学生群の不合格者が多かった。今回はその学生群もしっかり抽出し、2段階で指導していく予定である。

佐藤：その要因としては、従前と違い同じ方向へ向かない学生が増えてきたことが考えられるので、そのような学生もしっかり指導していく。

佐々木：当校の学生レベルはグラフでいうとどのようになっているのか。

佐藤：「2コブ ラクダ」のような分布である。大学等を卒業、中退してくる学生もいて学力が非常に高い学生もいる。その反面、高校卒業後にくる学生は学力が低い学生もいる。

・その他

田中：人間関係が何よりも大事だと痛切に感じている。当校の学生さんはボランティアでやっていただけるので非常に感謝している。お祭りにも参加していただける。気持ち良くやっていただいている、地域が頼りにしている学校である。

及川：クラスの中で「危ない」学生はわかる。クラスの友人や卒業生とのコミュニケーションが大切だと思う。今の若者は「職人」を選ぶか。なるべく手を汚さないような方向に行くのではないか。先生たちが「職人」を導くための指導をしていただいて、職人の卵を育ててほしい。

浅古：担任制を活かせということでもあるのではないか。

齋藤：新技術の自動車を扱っていくには、しっかりした技術を持った整備士が必要。学校からしっかりした人材を輩出し続けていただく必要がある。企業と連携された業界全体

の底上げをしていきたい。

大石：やはり人材不足である。大型はいまだに厳しい仕事が多く辞めてしまう子もいる。他の企業等の状況やなどを聞かせていただいて勉強になった。

沼田：自動車という商品は「アフター」が重要。整備士がいないと成り立たないものである。留学生をどう扱っていくかが課題となっている。留学生の採用が増えないから業種としての頭打ちにあっているのではないかと。今後課題である。

佐々木：ブランド化は良い。「カッコいい」と思えるブランド化を進めていって欲しい。自分が出た学校を誇りに思える学校になるよう進めていただきたい。

浅古：会社は人の成長なしに会社は成長しない。学校も人の成長なくしては成長しない。先生はもっと馬力がないと今の子は引っ張っていけない。我々がもっと力を入れていかないといけない。まずは先生が変わらないといけないと思う。

我々がエネルギーを持って、企業対抗プレゼン大会などを実施して若者にアピールする必要あるのではないかと。

先生たちがしっかりと愛と情熱を持って、馬力とエネルギー、言葉の力を持って学生に接していただきたい。

先生変わらずして学生は変わらない。学生が変わらなければ学校が変わらない。

#### 次回日程の確認

平成27年度 第2回学校関係者評価委員会開催日程（平成27年11月4日）の確認がなされ、委員全員の確認を得た。

以上

会議風景



